



2025年11月27日

各 位

会社名 アサヒグループホールディングス株式会社
代表者名 取締役 兼 代表執行役社長 Group CEO 勝木 敦志
(コード番号 2502 東証プライム)
問合せ先 Head of Corporate Communications 根本 ささ奈
(TEL. 0570-00-5112)

2025年12月期第3四半期決算の発表延期に伴う事業の進捗状況に関するお知らせ

当社は、9月29日に発生したサイバー攻撃によるシステム障害の影響で、11月12日に予定していた第3四半期決算の発表を延期しており、現時点で延期後の発表日も未定となっています（※本日、「2025年12月期決算短信の開示が期末後50日を超えることに関するお知らせ」を同時開示済み）。

ただし、システム障害による影響は日本で管理しているシステムに限られるため、欧州やアジアパシフィックの第3四半期までの進捗状況について、売上収益を中心に概要をお知らせします。

第3四半期決算および通期決算、システム障害による業績への影響については、システムが回復し確定次第、速やかに開示します。

各事業の為替一定ベースでの進捗および年間見通しは以下の通りです。

<欧州>

欧州の第3四半期累計の売上収益は、前年比3.0%の減収となりました。売上単価は緩やかに上昇しましたが、消費環境の低迷や中東欧の最盛期における天候不順などにより、ポーランドやチェコなどの販売数量が減少したため、トータルでは減収となりました。

売上収益は想定を下回る進捗となりましたが、ミックスの改善や変動費・固定費のコストダウンなどにより、事業利益はほぼ計画ラインの進捗となっています。今後もブランドへの戦略投資を継続していくますが、事業利益の年間計画の達成を目指していきます。

尚、グローバルブランドの母国外の販売数量（※欧州以外も含む概算値）は、『Asahi Super Dry』が前年比13%程度の増加、『Peroni Nastro Azzurro』が5%程度の増加と成長を加速しています。

<アジアパシフィック>

アジアパシフィックの第3四半期累計の売上収益は、前年比3.1%の増収となりました。主にオセアニアの酒類事業が市場の低迷などにより減収となりましたが、オセアニアと東南アジアの飲料事業が前年を上回ったことなどにより、トータルでは増収となりました。

売上収益は、市場回復の遅れなどにより計画を若干下回る進捗となりましたが、ミックスの改善や原材料などのコストダウンにより、事業利益はほぼ計画ラインの進捗となっています。今後も、最盛期に向けた適切なマーケティングにより単価改善を伴う需要回復を図るとともに、コスト効率化を推進していくことで、事業利益の年間計画の達成を目指していきます。

<日本・東アジア>

日本・東アジアの第3四半期累計の売上収益および事業利益は、9月29日以降のシステム障害により確定できない状況です。ただし、11月13日に「2025年10月アサヒグループ販売動向（概況）」において、日本事業各社の10月の概況（9月の概況も含む）を発表しています。

<参考>日本国内主要3社の10月単月の売上収益

- ・アサヒビール社 : 前年比9割超
- ・アサヒ飲料社 : 前年比6割程度
- ・アサヒグループ食品社 : 前年比7割超

■取締役 兼 代表執行役社長 Group CEO 勝木敦志 コメント

このたびのシステム障害により、多くの関係先の皆さんにご迷惑をおかけしておりますことをおわび申し上げます。

事業利益の進捗状況としては、日本・東アジアでは一定のマイナス影響を受けておりますが、欧州やアジアパシフィックはほぼ計画ラインで進捗しています。日本では、短期的な影響は避けられませんが、強いブランド群を基盤としたファンダメンタルズは揺るがないものと確信しています。

また、各種システムは着実に回復に向かっており、本システム障害によって「中長期経営方針」を変更するつもりはありません。引き続き、事業ポートフォリオの強靭化を力強く推進するとともに、現在実施している自社株買いを含め資本効率の向上にも取り組み、中長期的な企業価値向上を目指してまいります。

引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

次頁以降に参考資料「サイバー攻撃による情報漏えいに関する調査結果と今後の対応について」を添付しています。

以上

サイバー攻撃による情報漏えいに関する調査結果と今後の対応について

アサヒグループホールディングス株式会社（本社 東京、社長 勝木敦志）は9月29日以降、サイバー攻撃によるシステム障害発生について公表しています。

当社は外部の専門家の協力のもと、サイバー攻撃によるシステム障害の経緯、原因の特定、情報漏えいの可能性について調査を進めてきました。現時点で調査が完了した内容や範囲は以下の通りです。調査結果に基づいて、情報漏えいが確認された方および情報漏えいのおそれがある方には、順次お知らせします。11月26日、個人情報保護委員会には確報として報告しています。

1. 事案の概要

- 9月29日午前7時ごろ、当社システムにおいて障害が発生し、調査を進める中で暗号化されたファイルがあることを確認しました
- 同11時ごろ、被害を最小限にとどめるためにネットワークを遮断し、データセンターの隔離措置を講じました
- 調査の結果、攻撃者は当社グループ内の拠点にあるネットワーク機器を経由してデータセンターのネットワークに侵入し、ランサムウェアが一斉に実行され、ネットワークに接続する範囲で起動中の複数のサーバーや一部のパソコン端末のデータが暗号化されたことが判明しました
- 攻撃を受けたシステムを中心に影響する範囲や内容の調査を進めている中で、データセンターを通じて、従業員に貸与している一部のパソコン端末のデータが流出したことが分かりました
- データセンターにあるサーバー内に保管されていた個人情報については、流出の可能性がありますが、インターネット上に公開された事実は確認されていません
- 今回の攻撃の影響は、日本で管理しているシステムに限られます

2. 情報漏えいが発生またはそのおそれがある個人情報（11月27日時点）

対象者	内容	件数
アサヒビール株式会社・アサヒ飲料株式会社・アサヒグループ食品株式会社各社のお客様相談室にお問い合わせをいただいた方	氏名、性別、住所、電話番号、メールアドレス	152.5万件
祝電や弔電などの慶弔対応を実施した社外の関係先の方	氏名、住所、電話番号	11.4万件
従業員（退職者を含む）	氏名、生年月日、性別、住所、電話番号、メールアドレスなど	10.7万件
従業員（退職者を含む）の家族	氏名、生年月日、性別	16.8万件

※ 個人情報の中にクレジットカード情報は含まれておりません

※ 一件ごとに「内容」に記載の全ての情報が含まれているわけではありません

3. 個人情報に関するお問い合わせ窓口について
「アサヒグループ個人情報お問い合わせ窓口」
電話：0120-235-923（受付時間 土日祝除く 9:00～17:00）
4. システムの復旧について
 - ・ サイバー攻撃を受け、約 2 ヶ月にわたりランサムウェア攻撃の封じ込め対応、システムの復元作業および再発防止を目的としたセキュリティー強化を実施してきました
 - ・ 外部専門機関によるフォレンジック調査※や健全性検査および追加のセキュリティー対策を経て、安全性が確認されたシステムおよび端末から段階的に復旧していきます
 - ・ 今後も継続した監視と改善および追加のセキュリティー対策の強化を行い、再発防止と安全な運用維持に努めます

※ コンピュータやネットワークで起きた不正アクセス、ウイルス感染などの原因や経路を突き止めるための鑑識調査
5. 再発防止策
 - ・ 通信経路やネットワーク制御を再設計し、接続制限をさらに厳しくします
 - ・ メール・ウェブアプリなどを含むインターネットを経由した外部との接続は安全な領域に限定し、システム全体の堅牢性を高めます
 - ・ セキュリティー監視の仕組みを見直し、攻撃検知の精度を向上させます
 - ・ 万が一の際にも迅速に復旧できるよう、バックアップ戦略や事業継続計画についても再設計し、実装します
 - ・ セキュリティー水準を継続的に見直し、より実効性のある社員教育や外部監査を定期的に実施することで、組織全体のセキュリティーガバナンスを強化します

■取締役 兼 代表執行役社長 Group CEO 勝木敦志 コメント

このたびのシステム障害により、多くの関係先の皆さんにご迷惑をおかけしておりますことをおわび申し上げます。

一刻も早いシステムの全面復旧に向けて全力を尽くすとともに、再発防止策に取り組み、グループ全体での情報セキュリティ体制の改善に取り組んでまいります。

お客様への商品供給についても、システムの復旧状況に伴い段階的に出荷再開の対応を進めています。引き続きご不便をおかけしますが、ご理解いただけますようよろしくお願い申し上げます。

■関連リリース

- 9月29日「[サイバー攻撃によるシステム障害発生について](#)」
10月3日「[サイバー攻撃によるシステム障害発生について（第2報）](#)」
10月8日「[サイバー攻撃によるシステム障害発生について（第3報）](#)」
10月14日「[サイバー攻撃によるシステム障害発生について（第4報）](#)」